

学位研究 第2号 平成6年12月 (論文)
〔学位授与機構研究紀要〕

ゴードン研究会議とリベラルアーツ・カレッジ
Gordon Research Conferences and a Liberal Arts College

斎 藤 安 俊

Yasutoshi SAITO

Research in Academic Degrees, No. 2 (December, 1994) [the article]
The Journal of National Institution for Academic Degrees

ゴードン研究会議とリベラルアーツ・カレッジ

齋藤 安俊*

1. 緒言

1994年2月11日（金）の産経新聞「生活」欄に、 “日本の大学にはない苦労と充実感得るため” という見出しで、 アメリカ東部の私立大学などに学ぶ日本人女子留学生から、 留学の理由や悩みなどを聞いた記事が掲載された。 そこでは、 空前の海外ブームといわれるなかで、 海外女子留学生の本音として、 彼女たちを留学に駆り立てたものは何か？ を問いただしている。 まず、 この欄の本文には、 ボストン郊外のコルビー・ソイヤー・カレッジに学ぶ2人の女子学生が登場する。 コルビー・ソイヤー・カレッジ (Colby-Sawyer College) はニューハンプシャー州 (New Hampshire, NH) のニューロンドン (New London) という小さな町にあり、 マサチューセッツ州のボストンからは北北西に 100マイル (約160km) 以上も離れている。 したがって、 ひと口にボストン郊外と言っても東京一静岡間の距離に相当するから、 最寄りの大都市がボストンであるとしたほうが地理的には分かりやすいものと思われる。

このコルビー・ソイヤー・カレッジはアメリカ合衆国の数多いリベラルアーツ・カレッジの1つであるが、 とくに関心を寄せ、 あるいは何らか関係のある人々を除いて、 わが国ではそれほど名の通った大学（カレッジ）ではないと言っても過言ではない。 しかしながら、 著者は20年以上も前からこの大学の存在を知り、 さらに1985年からは、 1年おきの7月中・下旬に約1週間、 そのキャンパスに滞在する機会を得ている。 それは、 著者の専門分野の1つである高温腐食に関するゴードン会議 (Gordon Conference) が当大学で開催され、 参加者はほとんど学生寮に泊り込み、 討論、 情報交換、 打ち合わせ、 そしてレクリエーションなどを朝から晩まで共に行うからである。

そこで、 本稿では、 研究集会として一般的な国際会議とは本質的に異なるゴードン会議について説明するとともに、 著者がすでに5回参加した会議の会場となったコルビー・ソイヤー・カレッジの概要を述べることにする。

2. ゴードン研究会議

ゴードン会議は科学 (science) における 100 以上の専門分野について開催される研究集会であり、 それらの全体をゴードン研究会議 (Gordon Research Conferences; GRC) と総称している。 著者が出席している高温腐食など、 個々の専門分野の研究集会も、 正式には、 ゴードン研究会議と呼ばれるが、 広くゴードン会議と略称されてきている。 以下、 GRCの起源、 趣旨、 特徴などについて、 Nicholson¹⁾ のノートと GRCの案内パンフレット²⁾ を中心に、 著者の経験を加えて説明す

*学位授与機構審査研究部教授

る。

2.1 歴史的背景

1920年代の末期に、ジョンズ・ホプキンス大学 (Johns Hopkins University) の化学の教授をしていた Neil E. Gordon は、特定の分野、時には異なる学問分野で研究している科学者間で、適切で、かつ直接の情報交換・伝達を行うことは困難であること、したがって、科学系の学会が開催する大規模な研究集会では、ひと握りの人以外は、特定の分野における意味のある興味とか、同じような問題からほとんど完全に離れてしまい、一般には気晴らしに過ぎないことを予見したという。これらは今日、多くの関係者が気付いている問題であるが、それに対する Gordon の答えは、本質的には現在の GRC のような会議 (Conferences) であった。すなわち、この会議は、予め計画された場所で開かれ、参加者は高度の資格をもつ小グループで、非公式で記録にとどめない討論を行い、そして各分野の未開拓領域における科学的主題を内容とするものである。

前述のように、科学関係の研究集会の規模と性格はコミュニケーションを促進するよりもむしろ阻害していると考えた Gordon は、1931年から 6 年間、先例のない一連の夏季研究会議を組織し、現在の GRC を特徴あるものにしているフォーマットを案出した。Gordon 研究会議モデルは試験期間を乗り越え、1931年には 1 つに過ぎなかった会議は、今日では 130 にも及び、世界各国から 14,000 人もの科学者が出席するようになった。

1938年、Gordon は、アメリカ科学振興協会 (American Association for the Advancement of Science, AAAS) の化学部会の会長として、1931年から試みてきた夏季研究会議を AAAS の後援の下に常置して継続するよう、AAAS を説得した。その後、Gordon は健康上の理由からこの会議に積極的に関与しなくなったが、Gordon が死去する 1 年前の 1948 年になって、この一連の会議は彼の名誉を讃えて、公式にゴードン研究会議と呼ばれるようになった。そして、1956年には AAAS とそれまでどおり関係を保ちながらも、独立した非営利的組織として組み込まれた。

2.2 会議の形態と特徴

1938年に Gordon が AAAS に提案したフォーマットと現在の GRC のそれとは実質的に変わりはない。すなわち、会議は月曜日の朝から金曜日の昼まで 5 日間、厳密には 4.5 日間、インフォーマルな形式で行われる。参加者は会議が行われる場所に居住しなければならないとなっているが、これは原則のようで、現在は非居住も認められている。セッションは午前と夕食後の夜間に開くように予定が組まれ、夕食までの午後は自由時間で、レクリエーション活動、あるいは参加者の小グループ内での討論などに当てられる。参加者は同じような興味を持ちながらもバックグラウンドの異なる約 100 人に限られ、常に企業の科学者と大学・研究所の科学者が混ざり合っていることが強調されている。GRC の経営は支持下部組織を設けているが、各専門分野の会議は、それぞれの主査 (Chairman) の責任のもとに、自律的に管理される。各会議の終了にあたって、参加者自身で将来、引き続きその分野の GRC を開催することは有益であるかどうかを決定し、もしそうであるならば次の会議を組織するために責任のある主査を選出する。

GRCの1つの異例で、おそらく最も重要な特徴は会議の記録をしてはならないこと、すなわち“off the record”である。セッションが予め企画されたものであれ、非公式なものであれ、発表された情報を発表者の許可を受けて用いることは出来ない。その上、出版物やプロシーティングスが準備されることもないし、テープに記録したり、スライドを写真に撮ることも禁止されている。これは、発表者の権利を保護するとともに、未発表の研究データを公開することにより討論を活発にして、研究をいっそう促進しようという意図があるものと思われる。最近では、日本から多くの研究者がGRCに参加するようになったが、10年以上前までは出席することが珍しく、しばしば学会誌などで会議の内容が報告されたり、引用された。これはGRCのルール違反であるが、参加者の増加にともなってGRCの趣旨が理解されたようで、近年は姿を消してきている。

各会議の主題や講演者(Speaker)は、主査が有力者や前回の出席者の意見を聞きながら決定しているようである。講演の内容は、自己の研究成果や考えを含めて総合報告の形で行われる。セッションごとに討論司会者(Discussion Leader)がおり、各講演に先立って、主題に関する自らのデータや考え方を簡単に説明したり、発表者の紹介を行う。主査、講演者、討論司会者に選出されるのは1つの名誉である。近年では、ポスター発表が加わり、若手研究者や英語に堪能とはいえない研究者が成果を示し、思い切って討論する機会が得られるようになった。講演者と討論司会者の選出は主査の責任で行われる。

結局、案内パンフレットに述べられているように、GRCの目的と他に類を見ない効果は、討論と知識の自由な交換を行うため、化学またはそれに関連した科学の分野において共通の興味を持つ研究者の集会を組織し、運営し、それによって大学、研究団体、および企業の研究所における研究の先端的な考えを刺激して、教育と科学を育成・促進することにあり、“Frontiers of Science”を広げる役割を担っている。

2.3 会議参加費

GRCは適度な参加費で行われるが、自弁という伝統がある。参加費は、1994年では\$500(2人部屋、各会議の3週間前までの消印で申し込めば\$450)で、4.5日(5泊・1日3食付)間の会議費用を負担し、同時に、各会議の主査が講演者、大学院生などを援助するのに使用する特別基金への寄付も含まれている。外貨(ドル)に不自由な国からの参加者については、主査の配慮で援助が期待されるようである。参加費は年々増額しているが、GRCの事務局は、ドルの価値を一定とすれば、増額の割合は高いものではなく、それはGRCの経営に対する報酬であることを強調している。なお、非居住で参加する場合、1994年では\$40だけ差し引かれるが、会期中の食事代は含まれており、GRCは食事を共にしながら研究者間の交流を深めることを重視していることが分かる。

なお、50以上の企業がスポンサーとなって、基金を保持している。

2.4 高温腐食会議

高温腐食に関するゴートン研究会議は奇数年に開催されるが、偶数年には湿腐食(Wet Corrosion)が主題となる。両腐食を合わせて正式には腐食(Corrosion)に関する会議であり、1941年

7月, Gibson Island で初めて開催された。その時の主査は1993年7月3日逝去された³⁾ マサチューセッツ工科大学の H. H. Uhlig 教授であった。1946年, 腐食は湿腐食と乾腐食(Dry Corrosion)に分かれ, Corrosion-Dry の会議が高温腐食を中心に独立して今日に至っている。高温腐食に関するゴードン研究会議には, 世界各国から豊富な経験をもつ研究者・技術者が恒常に参加しているが, 最近では, 大学院学生を主として新進の学徒も出席し, 活発に討論に加わるようになった。ただし, 日本からの参加者は老若を問わず極めて少ないので残念で, 著者が1985年に初めて出席した次から連続して参加しているのは, 著者を含めて2名に過ぎない。この会議には種々の国際集会で顔を合わせた専門家が隔年で集まるので, “I hope to see you again at the next Gordon Conference.” が合言葉のようになっている。

会議では, 古い極めて著名な学者を挙げ, 時には食事で隣合うことができるの大変な利点であり, 得難い経験となる。著者は, 長い間, Gulbransen 型マイクロバランス⁴⁾ に関心を抱いていたが, その開発者であり, 表面科学・高温腐食科学の分野で卓越した研究業績のあるピッツバーグ大学 E. A. Gulbransen 教授に親しく接することができたのは, 1985年の本会議である。同教授は, 1952年の Corrosion-Dry 会議の主査を務められたこともあり, 1987年の会議では, 夫妻を囲んで誕生80年の祝賀パーティが開かれた。なお, 同教授は1992年9月15日逝去された⁵⁾。

高温腐食会議の基本的形態は先に述べたとおりであるが, 午前と夜のセッションでそれぞれ2件の発表が行われるのが通例となっている。さきに述べたように, 講演に先立ち, 討論司会者の短い論述や講演者紹介がある。しばしば議論が白熱化して時間が起過し, 夜のセッションでは終了が10時過ぎになることもある。会期中には次回の主査を選出する。それには, 有力者(?)が2~3名の候補者を出し, 出席者全員が投票で最終決定する。

午後の日中は自由で, テニスやバレーを楽しんだり, 近くの湖で泳いだり, また木陰で談笑する。有志のマラソンやゴルフ大会も恒例として行われ, 成績の発表やトロフィーの授与があって, 専門を離れた交流も盛んである。最終日の前日, 木曜日の夜は一種の息抜きで, 夕食ではロブスターの特別料理を楽しみ, 夜のセッションでは専門的ではない講演も行われて, この時だけは家族など通常は会場に入室できないゲストも参加が許される。

2.5 GRCの会場となる私立学校

GRCは, 1946年, ニューハンプシャー州には多くの私立学校があり, それらは田舎風の環境で, 夏季期間は使用されない宿泊設備を持っていることに気がつき, それがコストを抑える解決の鍵となった。GRCは, そのような11の学校(そのうちの1校はロードアイランド州にあるが, ほかはすべてニューハンプシャー州にある。)と互いに有利な解決法として協定を結び, 100以上の個々の会議の会場として使用している。著者がゴードン会議に参加するようになってからのプログラムによると, 会場となるのは10校で, そのうちの1校がロードアイランド州(R I)にある私立大学である。ニューハンプシャー州(NH)にある9校のうち, 6校は高等学校または専修学校, 残り3校がコルビー・ソイヤー・カレッジを含む大学(カレッジまたはユニバーシティ)であり, 1校は州立である。これらの大学のほか, University of Rhode Island にはGRCの事務局であるGordon

Research Center が置かれており、その事務室は会議が開かれる 7 月中旬から 8 月中・下旬までの間、会場の 1 つであるコルビー・ソイヤー・カレッジ内に置かれる。

これらの GRC に関連のある大学はすべて地域基準協会の認定をうけている。著者が出席している高温腐食の GRC はコルビー・ソイヤー・カレッジの大教室と寮を使って開催される。前章で述べたように、GRC の会議自体は月曜日から始まるが、実際には、前日の日曜日の夕方にはほとんど全参加者が集合し、登録、寮への入室を済ませてから、夕食とその後の懇談を共にする。GRC 参加者の便宜のため、ボストンのローガン空港と会場の間の送迎（有料）がバスをチャーターして行われるが、GRC は、毎週、同時に 10箇所の会場で別々の会議が開かれるのでバス利用者の数は多く、出発時刻午後 4 時前のローガン空港 D ターミナル出口付近は、GRC 参加者とチャーターした大型バスとでなかなかの賑わいである。以下、コルビー・ソイヤー・カレッジについては次章で説明することにして、それ以外の大学の概要^⑩ を述べる（大学名、所在地などは英語のままする。）。

(i) Plymouth State College, Plymouth, NH

1871年に創立された 4 年制州立カレッジである。詳しくは Plymouth State College of the University of New Hampshire と呼ばれ、ボストンの北、約 116 マイルの所にあるが、中心となる University of New Hampshire はそこよりも 35 マイルばかりボストンに近い Durham にある。文理およびビジネスの学部と教員養成カレッジより成っている。授与される学位は、AA, AS, BA, BS, BFA, MS, MBA, MEd である。1991年に授与した学位数は、準学士 35、学士 589、そして修士である。

(ii) New England College, Henniker, NH

1946年に創立された 4 年制私立カレッジである。ニューハンプシャー州の州都であるコンコード (Concord) の北西、約 18 マイルの小さい町にある田園風のキャンパスである。ビジネス、工学、ならびにリベラルアーツのカレッジで、授与される学位は A, BA, BS で 1991 年には準学士が 6 名、学士が 245 名誕生している。

(iii) Salve Regina University, Newport, RI

1934年に創立された 4 年制私立大学で文理学部のカレッジがある。ボストンの南西プロビデンス (Providence) から約 40 マイルの大都市郊外型のキャンパスである。授与される学位は、AA, AS, BA, BS, MA, MS, MBA, MEd、そして PhD である。1991年の授与者数は、準学士 6、学士 409、そして修士以上 14 である。

(iv) University of Rhode Island, Kingston, Rhode Island

1892年に創立された 4 年制州立大学である。ロードアイランド州の州都 プロビデンス (Providence) から約 30 マイルの小さい町に田園風のキャンパスがある。授与される学位は、AS, BA, BS, BFA, MA, MS, MBA, PhD, MmD である。1991年の授与者数は、準学士 13、学士 2278 である。大学院の規模も比較的大きく、さらに継続教育の部局を設置して単位や学位を与えている。

3. コルビー・ソイヤー・カレッジ

コルビー・ソイヤー・カレッジはニューハンプシャー州のニューロンドンに所在する。当市は州

都コンコードの北西、約35マイル、ボストンの北北西、約112マイルの小さい町である。1768年にロンドンで出版されたニューハンプシャーの地図によると、ニューロンドン (New London) は、当時、Heidleburg と呼ばれていた⁷⁾ようである。以下、資料⁶⁾⁸⁾から引用して、コルビー・ソイヤー・カレッジの概要を紹介する。

3.1 創立と発展

コルビー・ソイヤー・カレッジは1837年に高等学校として設立され、1928年以降は高等教育のリーダーとなったリベラルアーツ・カレッジである。1837年、学校設立を目的として、立法権が11名のニュー・ロンドン市民に授与され、翌1838年5月に最初の学生が受け入れられた。Susan Colby は最初の教師であり、校長でもあった。彼女は、後にニューヨークの James B. Colgate と結婚したが、学校の学習計画には引き続き積極的に参画した。Susan Colby Colgate の各世代は、コルビー・ソイヤー・カレッジの生涯と同一視されている。現在、キャンパスで中央の教室と事務室のある建物の Colgate Hall は、娘である Mary Colgate から贈られたものである。Colby 一族とのこの特別な関係は、New London Academy が Colby Academy と改名した1878年、正式に承認された。その頃のニューハンプシャー州は 5th Historical Period (1871~1898) の時期に相当し、南北戦争 (1861~1865) で受けた経済的圧迫から回復していなかった⁷⁾。

1928年、男女共学の高等学校として50年を経過した後、Colby Academy は女子短期大学 (Junior College for Women) となった。学長 H. Leslie Sawyer の強力なリーダーシップのもとに、Colby Junior College は発展し、国内の評判を得て、広く知られるようになった。その結果、入学者は増加し、新しい建物が増築された。1943年には、早くも、カレッジ免許が改訂され、学士 (Bachelor) 課程が導入された。学士号授与は徐々に拡大し、カレッジの主要課程として重点が置かれるようになった。1975年には、最初の学長に敬意を表し、拡張された使命を認めて Colby-Sawyer College と改名した。1989年、理事会は本カレッジ前身校時代における男女共学の伝統を再び確立するため、在籍学生の中に男性が再度加わることを投票で支持した。したがって、現在は男女共学校である。なお、1993年現在の学長は6代目で、Dr. Peggy A. Stock である。

なお、1991年の学位授与者数は、準学士18、学士67であるから、規模としてはそれほど大きいものではなく、典型的なニューアイングランド地方のリベラルアーツ・カレッジということができよう。

3.2 学士および準学士課程

4年の課程を終えた学生に対して、コルビー・ソイヤー・カレッジが授与する学士レベルの学位の種類とそれぞれの専攻の区分は次のとおりである。

- (i) バチェラー・オブ・アーツ (Bachelor of Arts; BA)

アメリカ研究、美術、生物学、コミュニケーション・アーツ、心理学

- (ii) バチェラー・オブ・ファイン・アーツ (Bachelor of Fine Arts; BFA)

美術、グラフィックデザイン

- (iii) バチェラー・オブ・サイエンス (Bachelor of Science; BS)

芸術経営, 生物学, 経営学, 児童学（2専攻選択：子供発達, 幼児教育), 看護学, 社会学(中等教育), スポーツ科学（3専攻選択：運動トレーニング・スポーツ医学, 運動科学, スポーツ経営管理学)

以上3つの課程には、それぞれ自主計画専攻(Student-Designed Major)とよばれる専攻が置かれているが、これについては後に説明する。また、美術と生物学には教員免許課程がある。

学士の学位授与の要件を満たすには、English 105とEnglish 106(両科目ともWriting)を含めて最低120単位を修得しなければならない。学生は、4つのコア・コースと学際分野から1つのコア選択科目を履修する必要がある。さらに、専攻における固有の必要条件を満たさなければならない。専攻の必要条件の半分は、300レベルまたはそれ以上(いわゆる専門的科目に相当)で課程になければならない。選択コースの数と専攻の必要条件に要求される点の平均は専攻によって変わること。

次に、2年課程は、学芸と科学(Arts and Science)の探究でリベラルアーツ教育を終えることを希望する学生のニーズに応えることを目的としたものである。準学士(Associate Degree)を取得する学生は、コルビー・ソイヤー・カレッジか他の大学で学士に必要な条件を満たすように計画することができる。準学士レベルのカリキュラムとしては、English 105とEnglish 106を含めて最低60単位の修得が要求されている。加えて、4つのコア・コースと学際分野から1つのコア選択科目を履修する必要がある。

3.3 副専攻と自主計画専攻

学生はもう1つの分野で副専攻を学ぶことにより、専攻以外の領域に専念することを希望することができる。副専攻は、指示されたコースで修得する最低18単位から成り、そのうち2単位はジュニア・シニアレベルである。用意されている副専攻は次のとおりである。

アメリカ研究, 美術, スタジオ芸術, 美術史, 生物学, 経営, 英語, 歴史, 哲学および宗教, 心理学, スポーツ科学(運動科学, スポーツ経営管理学), 女性研究

学際的課程を進むことを希望し、学問的にも能力の高い学生は、前述の自主計画専攻を専攻として展開することができる。この主専攻を選ぶためには、学生は総平均で2.5(4点評価)は必要であり、また、とくに選択した自主計画専攻に関連した分野で高い学問的能力を示さなければならない。自主計画専攻は学際的なものでなければならないし、また“伝統的な”学習分野で学位を取得するのを目的として考えてはならない。したがって、心理学、歴史学、英語、フランス語、または社会学など、ほかの高等教育機関で伝統的に利用できる専攻内での自主計画専攻は、適切とは考えられない。

3.4 授業料等

1991～1992年度の全日制学生に必要な経費は次のとおりである。

寮生(2人部屋)	\$16,900.00
内訳	授業料

寮費	\$ 2,606.00
食費	\$ 2,110.00
課外活動費	\$ 285.00
通学生	\$12,185.00

このほか、年間追加料金\$400.00で個室、同じく\$300.00専用浴室付部屋に居住できる。本カレッジには8つの寮があり、それぞれ30~100人を収容できる。寮の建物には本カレッジに貢献した人々の名前を付けており、このことはアメリカの大学一般と同様である。8つの寮のうち6つは1930~1940年間に建築されている。著者は2つの寮に宿泊した経験があるが、ごくふつうの寮である。

3.5 継続教育

すべての年代の学生に教育の機会を与えるため、コルビー・ソイヤー・カレッジは、全日制か定時制で正式な教育を受けることを希望するが、職業上の環境とか家庭における責任上から、在籍しながら学部教育全般に参加できない社会人を歓迎している。コースは正規のカリキュラムから選択され、継続教育の学生は他の全日制学生とともに授業に出席する。継続教育の学生に対しては、学問的および社会的な面でカレッジから多くの援助を受けることができる。本カレッジとしては、成人の学習者がキャンパス生活に融け込むことは、教室の内外ですべての学生にとって有益であると期待している。

継続教育の学生は、入学に対して入学志願者の現在の能力を評価する資格のある個人からの推薦状、ならびに学生が単位加算を希望するならば従前の大学の履修の写しを添えて、願書を入学事務室に提出する。SAT (Scholastic Aptitude Test) または ACT (American College Testing Program) の試験結果は適用されない。

1991—1992年度の継続教育の費用は次のとおりである。

出願料	\$ 40.00
全日制継続教育学生の全授業料	\$11,900.00
定時制学生の1単位あたりの受講料	\$ 395.00

全日制継続教育学生の全授業料は、各セメスターに12~18単位の範囲の取得を認めている。また、12単位以下を登録した学生は1単位について\$395.00の割合で請求される。

卒業の資格をとるには、各学生はコースで平均2.0、最低、学士では120単位、準学士では60単位を修得するのが標準である。特定の学位課程に対して指示された単位の半数と、最終の30単位とは、キャンパスの内外いずれで修得しても、コルビー・ソイヤー・カレッジによって保証されなければならない。ニューハンプシャー大学連合 (New Hampshire College and University Consortium) の1つのキャンパスでコルビー・ソイヤー・カレッジを通して行った研修と登録は、コルビー・ソイヤー・カレッジによって保証されたキャンパス外の体験として含まれる。

学士の学位課程の学生は、大学外の学習経験、前大学での既修得単位の認定、および試験で最大90単位が認められる。大学外の学習経験として、学生は次の条件が満たされれば、職業経験を大学の単位に認定するようカレッジに願い出ることができる。

- (i) 職業経験は当該学生が志願する学位課程の分野に当てはまること。
- (ii) 原則として、職業経験は出願時期の6年以内に行われていること。
- また、この手続きは次のように行われる。
- (i) コルビー・ソイヤー・カレッジにおける最終学年に先立ち、学生は単位が必要とする職業経験の全レジメ、ならびに単位が与えられるための説得力ある理由の説明書の両方を提出して、その単位にとって適切な学科に願い出る。
- (ii) 経験の内容は、学科と大学政策委員会（Academic Policies Committee）の双方で合意した評価手続きにより、適切な学科によって評価される。
- (iii) 原則として、学外の職業経験に対して12単位以上を与えることはできないが、例外として、24単位まで与えることができる。
- コルビー・ソイヤー・カレッジのリベラルアーツ教育に相当した要件をすでに満たしており、基準協会認定の大学から準学士号を取得している学生は、他の大学で履修し、合格したコースについてすべての単位を修得できる。上記の要件と異なるか、リベラルアーツ教育の要件に対応しない準学士号をもつ、あるいは準学士号をもたない学生の学修は、コースごとに評価される。そのような場合、ある成績以上で終えたコースに対して単位が与えられ、コルビー・ソイヤー・カレッジ入学を許可される前に履修したコースで得た成績は、累積成績点平均（G P A）を計算するときには含まれない。

4. 結　　言

ユニークな科学系の研究集会であるゴードン研究会議について、歴史的背景、特徴などを説明した後、この会議の会場となるニューアングランド地方の大学（カレッジとユニバーシティ）の概要を述べた。さらに、著者は過去10年間、高温腐食に関する会議に継続して出席しているが、この会議がニューハンプシャー州のコルビー・ソイヤー・カレッジで開催されることから、このリベラルアーツ・カレッジに注目し、学士の学位授与の要件、継続教育などについて簡単に紹介した。

参　考　文　献

- 1) R. S. Nicholson: "Gordon Research Conferences", *Science*, Vol. 231, No. 4, 997, 1 March, 1991.
- 2) Gordon Research Conferences: *64th Year on the "Frontiers of Science"—1931—1994*, 1994 Summer Schedule and General Information.
- 3) 佐藤教男、松島巖：「H. H. Uhlig 博士逝去」、『材料と環境』、Vol. 42, No. 10, p. 679, 1993.
- 4) 齋藤安俊：『物質科学のための熱分析の基礎』、初版2刷、p. 190、共立出版、1994.
- 5) 齋藤安俊：「Gulbransen 教授のご逝去を悼む」『材料と環境』、Vol. 43, No. 1, p. 52, 1994.
- 6) College Entrance Examination Board: *The College Handbook*, 1993.
- 7) Myra B. Lord: *A History of the Town of New London*, New Hampshire, Historical Editions Series; A facsimile of the 1899 edition with a new foreword by J. Duane Squires, New Hampshire Publishing Company, Somersworth, 1972.
- 8) *Colby-Sawyer College Catalog 1991—92*.

[ABSTRACT]

Gordon Research Conferences and a Liberal Arts College

Yasutoshi SAITO*

The Gordon Research Conference is a unique scientific meeting in the fields of chemistry or related sciences. The concept of the Gordon Research Conferences was originally proposed by Dr. Neil E. Gordon, a professor of chemistry at Johns Hopkins University, in the late of 1920's. The Gordon Research Conferences began with a single conference in 1931, and has expanded to about 130 conferences today. Conferences take place in the morning and in the evening, Monday through noon on Friday. Afternoons are free for recreation, sports, reading or discussions among small groups. Attendance of each Conference is limited to about 100 highly qualified participants. One unusual and important feature is that Conferences are "off the record". Information presented during each Conference cannot be used without permission of the presenter. Tape recording and photography are prohibited.

The Gordon Research Conferences have been held at private schools in New Hampshire and Rhode Island in the United States, including some liberal arts colleges. The Conference on Corrosion-Dry has been held at the Colby-Sawyer College, New London, New Hampshire every other year, at which the present author has attended since 1985. Colby-Sawyer College is one of the 4-year private liberal arts colleges, which was founded as a secondary school in 1837, and became a Junior College in 1928. The College awards the Bachelor of Arts(BA), Bachelor of Fine Arts(BFA), and Bachelor of Science(BS) degrees in the area of innovatively integrated liberal arts and sciences, and also Associate(AA) degree in the liberal arts.

* Professor, National Institution for Academic Degrees